

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校

校長 河野 芳浩 様

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校

学校関係者評価委員会

委員長 高谷 あゆ子

令和5年度 学校関係者評価報告書

〈はじめに〉

この度は、11月にWeb配信されました学校関係者評価アンケートへのご回答、誠にありがとうございました。保護者の皆さまをはじめ、多くの学校関係者の方々にご回答いただき、学校への関心の高さが伺えます。

今年度は、5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、以前のような学校生活に戻りつつあることがアンケート調査結果にも表れています。とはいえ、感染症のリスクがなくなったわけではなく、今後も皆さまの声を反映しながら新しい生活様式に即したより良い学校生活を模索していけると良いと思います。

また、年明けには自然災害の恐ろしさに触れ、誰もがいつ起こるか分からない災害に備え、地域とのつながりをもつことの大切さを痛感いたしました。地域の拠点となる学校運営を目指すためにも、日頃より学校・保護者・地域の皆さまが深く連携することが不可欠です。今後とも、子どもたちの健全育成と更なる学校改善の為、本校の教育活動へのご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎調査結果の分析と考察◎

※以下、『肯定的回答』は「とても思う」「思う」、『否定的回答』は「あまり思わない」「思わない」を合計した割合を示します。

『学校重点目標』に関する肯定的評価（児＝5・6年生児童、保＝保護者）

(1) 「キャリア教育・未来デザイン教育」の充実による思い描く未来を実現することができる資質・能力の育成

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	目標をもち、その実現に向けて努力している	80%	69.6% (75.6)
児	学校行事は達成感がある	85%	81.4% (83.4)
保	本校の教員は、子どもに目標を持たせその実現の為に支援している	70%	57.1% (66.7)

キャリア教育に関する肯定的評価が若干下がっています。要因のひとつには、捉え方の違いによるものが考えられます。キャリア教育というと将来の職業に直結するものだと捉えがちですが、目標をもって学校生活を送ることや、夢をもつこと、自分の好きなことを見つけることといった日常的なこともすべてキャリア教育に繋がっています。ひとりひとりが自己肯定感をもち、なりたい自分を見つけていけるような小学校時代を送れるよう学校と保護者が一丸となって働きかけをしていけると良いと思います。

(2) カリキュラム・マネジメント・ICT活用・探究的な学びの充実による「主体的・対話的で深い学び」の推進

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	先生は、児童の意欲を大切にしている	85%	82.0% (81.8)
児	授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある	90%	94.7% (89.6)
保	本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている	80%	76.5% (77.9)

コロナが「5類」に移行したことにより、授業の中で友だちと話し合ったり、みんなの前で発表したりする風景が戻ったことを大変嬉しく思います。また、本校では「これからの社会を生き抜く児童の育成」と題して国語科と社会科を中心とした校内研究に取り組んでいます。特に国語科では、「話すこと・聞くこと」をテーマとした研究授業を行い、専門的見識の高い大学教授のご意見を仰ぎながら指導方針の改善に努めているそうです。そういった先生方の取り組みや日頃の意識が高評価に繋がっていると思われまます。

(3) 教師と子どもの信頼関係を基盤にした「支持的風土」のある集団づくりや

学校・家庭・地域が連携した「共育」による学校力の向上

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	学校生活は楽しい	85%	85.1% (85.5)
児	先生に注意されたことは、理解できる	90%	92.0% (89.7)
保	学校生活は子どもにとって楽しい	95%	86.6% (91.3)

概ね例年通りの結果となりました。保護者からの評価が下がっているのは、コロナ禍以降保護者同士が交流する機会がどんどん減っていることも一因かもしれません。子ども同士の関わりは元に戻りつつあるものの、保護者同士の関わりは後回しになっている印象があります。他の人から我が子の別の姿を聞くことや、同じ年頃の子どもの持つ者同士で悩みを共感することは、子育てにおいてとても安心感に繋がります。保護者会や学校公開に足を運び、横のつながりを大切にしていけるような機会がより増えていくことを期待します。

I. 児童の顕著な結果から

●児童の肯定的回答（「とても思う」、「思う」の多かった項目）

項目	本年度（昨年度）
先生は課題について自分で考えたり友だちと考えたりする時間を授業の中で取っている	92.6% (91.2)
友だちとなかよく学び合うことができる	86.7% (90.7)
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある	94.7% (89.6)
学校行事は楽しい	92.1% (89.6)

今年度は、3年ぶりに校外学習に出かけたり、学びの祭典、北っこまつりが開催されたりするなど様々な活動や行事が復活しました。運動会は整理された形ではありますが全学年で開催され、運動会でできなかった大玉転がしは土曜授業の中で行うといったように子どもたちにとってのお楽しみも増えました。また、昨年度に引き続き火・木・金の休み時間を使ってマラソンやなわとびにチャレンジし、体を動かす活動にも力を入れています。そういった活動が子どもたちの回答結果にも反映されています。

●児童の否定的回答（「あまり思わない」、「思わない」の多かった項目）

項目	本年度（昨年度）
学び舎の中学校に行ったり、中学生がきたりする機会がある	30.4% (38.9)
自分の生き方や将来のことについて考える授業がある	30.9% (25.9)
先生たちに相談できる	26.0% (21.8)

部活見学やあいさつキャンペーン、運動会のボランティア、から北寺子屋ボランティアなど、中学校との交流も再開されています。本アンケート実施後になりますが、11月には烏山中学校生徒会の小学校訪問があり、3名の中学生が6年生の全児童に向けて中学校生活の話をしてくれました。

「先生たちに相談できる」は、もちろん肯定的回答が多いものの、否定的回答も若干増えています。一般的に、学校生活について問うような様々なアンケート調査が増えてきている一方、先生と子どもたちが気軽に雑談する機会は減ってきている印象があります。労働時間の問題等もあり厳しい時代ではありますが、休み時間や放課後のたわいもない会話から子どもたちの様子をうかがい知ることは大切です。本校では、先生方が休み時間に子どもたちと一緒に校庭で遊んでいる姿をよくお見かけしますが、今後とも子どもたちとの日常的な関わりを大切にしていきたいと幸いです。

II. 保護者の顕著な結果から

●保護者の肯定的回答（「とても思う」、「思う」の多かった項目）

項目	本年度（昨年度）
学校行事は子どもにとって楽しい	96.2% (96.3)
学校行事は子どもにとって達成感がある	94.3% (94.2)
私は学校公開にすすんで参加している	90.2% (92.5)
私は自分の子どもと学校生活について話をよくしている	91.5% (93.8)

●保護者の否定的回答（「あまり思わない」、「思わない」の多かった項目）

項目	本年度（昨年度）
私は今年度の学校重点目標を理解している	35.8% (37.5)
子どもは家庭で自主的に学習をしている	36.1% (37.9)
「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている	37.1% (43.7)

●保護者の（「分からない」が多かった項目）

項目	本年度（昨年度）
本校は、地域に情報を提供している	30.9% (35.8)
本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている	28.1% (19.6)
本校は、地域の活動などに協力的である	26.5% (31.7)

どの項目も、ほぼ例年通り高い水準となっています。学校公開や道徳公開授業等の参加率はまだまだ少ない印象ですが、学校ホームページがほぼ毎日更新されるようになり閲覧数が増えています。多くの保護者の皆さまが子どもたちの様子や学校生活に関心を寄せて下さっていることをとても喜ばしく思います。

III. 地域の顕著な結果から

●地域の肯定的回答（「とても思う」、「思う」）の多かった項目

項目	本年度（昨年度）
通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている	90.3%（89.5）
学校は安心・安全な学校づくりをすすめている	90.4%（84.2）
学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる	96.8%（84.2）

地域の皆さまからの肯定的評価は上昇しています。今年度より、青少年地区委員会主催のさつまいも掘り、炊事遠足等がコロナ禍以前の状況に戻り、好意的に捉えていただいている様子が伺えます。今後も、地域の方々に学校だより（青がし）やホームページ、広報誌、学校運営委員会だより等を通して学校の様子を知っていただくと共に、から北寺子屋・昔遊び等への協力を呼びかけるなど地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

〈おわりに〉

本報告書は、年度始めに校長先生によって出される「学校重点目標」に沿って評価の分析をしています。これまで保護者として「学校重点目標」についてあまり意識したことはありませんでしたが、先生方の授業、おたより、日常会話等を通して、子どもの姿となって表れてくるものだということを本委員会を通して知ることができました。「学校重点目標」は、学校ホームページの「学校概要」→「教育目標」のところに記載があります。ぜひご覧になってみてください。

また、学校ホームページの「学校関係者評価」のところには、本報告書、集計結果と共に先生方の自己評価の結果も記載されております。努力の度合と成果の度合を見ると、日々努力を重ねつつも自分に厳しく課題意識と向上心を持って教育にあたってくださっている先生方の姿勢が伺えます。近年は多様化の時代といわれ、様々な価値観がある中、家庭環境の問題やネットをめぐる様々な問題、成果や責任を求める風潮など学校を取り巻く環境も目まぐるしく変化しています。そのような状況に柔軟に対応していく学校運営はとても大変なものだと思います。しかし、いつの時代であっても先生方は、ありのままの姿で子どもと向き合い、子どもたちの笑顔を引き出してくれる存在であってほしいと思います。今後とも、未来ある子どもたちのために学校・保護者・地域の皆さまが協力し合える学校づくりを目指し、一層のご尽力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 学校関係者評価委員

高谷 あゆ子、田中 映子、木内 絵里
阿部 純子、今川 陽子、庄司 貴子